

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年1月20日

事業所名 通所支援事業所フレンドロコペリ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5		扉をしてグループ化することでよくなってきている。	
	2 職員の配置数は適切である	3	2	休み希望の重なりなどは配慮している	コロナの時期で少人数グループになった際に、手薄になってしまう場面があった。→感染対策を行いながら、支援できる体制を整える
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	1	グループ化で行う場合は、児に合わせて部屋の選択をスタッフで考えていく	場合によっては死角となり、支援の際に見落とししているところもある。→声掛けや一人一人が臨機応変に動く。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5			机についたのりなど細かいところの掃除も行う。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5		翌日へ生かす。参加できていないスタッフへの共有。昨年よりも振り返りにかける時間を取ることができている。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5			
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5			
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	1		
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		月一回開催されている。研修の際に様々な職員の意見を聞く機会があり、支援を行う上でいい刺激となった。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5		モニタリングや事業所内面談などを通して、児の家庭で様子など情報共有をしている。記録や意見を基に作成されている。	もう少し細かく記録を書けたり、一人一人が意見を出し合えるようにする。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	1		視点ポイントを定める。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5			
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5			達成された課題と今後の課題の把握を自分自身がもう少し知ったうえで支援するべきところがあった。→日ごろから目を通す機会を増やす
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	5		早め早めの立案を心掛ける。それぞれの意見やアイデアなど盛り込んでいる。以前よりも改善され、グループで協力しあっている。	見逃し、聞き逃しのないように、メモを取る習慣をつける
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	1	前回の立案を参考に、子供の反応や取り組み状況を振り返りながら再立案している。	固定化している部分もあるため、できていることはチェックシートなどに記載する

	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成している	5		朝の自由時間で個別を行っている	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5		朝のミーティングで行っている。	事前に打ち合わせを行っていても、天候の変化や児童の体調変化などがあつた際に、もっと打ち合わせや意見を聞く時間を設ける必要があつた。→より意見交換を増やす。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5		振り返りに参加できなかった職員への共有の徹底。それぞれ出し合い、今後の支援方法や課題を決めて実践する流れで行っている。	課題について、一人一人が把握して次の支援に生かす必要がある。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5		偏りがないように、一人の児に対して複数で記録をするようにしている	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5			
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5		モニタリングに保健師さんも参加していただいている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	4			
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	4		連絡を迅速に行えるように整える	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5		送迎時に相談を受けたり、情報交換を行ったり、学校見学に行ったりしている。支援方法や改善点など、送迎時にやり取りを行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	1	支援移行シートを入学前に作成している。見学に来ていただく機会を設けている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	1	他事業所での様子なども交えながら支援を行っている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	3		戸外活動や送迎で時々かわりがある程度。→今後交流の機会を設けたい
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2	3		コロナの影響もあり、できていない。→コロナ後積極的に参加する。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	1	お帳面やLINEを活用し、報告したやり取りを行っている。保護者会でも非簿の様子を伝えられるようにしている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	4	1	お帳面に困りごとを記入するスペースを設け、書面やTELにて支援方法など話し合っている。トイレットレーンや生活習慣の見直しなど、自宅と事業所で協力して行っている。(できたらシールを貼っていくなど)	

保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	2	2		ポイントをまとめて伝えるようにする
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5		お帳面や電話での対応を行っている。モニタリングの場や事業所面談、お帳面を活用し、アイテムを準備したり、支援を統一するようにしている。お帳面に以前より非簿の様子や悩み事などを書いてくださることが増えた。それに対して職員でよく話し合ってから対応していく。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5		毎月保護者会を行っている。コロナでできない場合は、リモート等で行った。	参加人数増員のための工夫が必要→数か月前からのお知らせを行う。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4	1	支援の仕方について話し合い、確認をしたうえで、次の利用時に準備したアイテムなどを渡し家庭との連携を図っている。	すぐに職員間で話し合いの場を設けたり、もっと連絡・相談をする必要がある。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5			毎月の予定表とは別に、定期的なお便りの発行を検討する
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	4	1	写真や記録などの取り扱いについては、継続して配慮する	個人情報のある部屋に、職員以外が入らないように工夫する。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	4		
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4	1		定期的に回数を増やして計画していきたい。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3	2		計画を増やして確実に行いたい。様々な災害があるため、それに応じた訓練を行う必要がある。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5		利用開始前に必ず確認している。予防接種に関しては、保護者報告のみになっている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	1	保護者からの情報で対応している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	1	報告・共有は行っている。	ヒヤリハットの大小に関わらず、小さなことでも記載しておく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	3	1		